

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより



第2号

10月29日(木)
2009年(平成21年)
発行所
安中新田会所跡
旧植田家住宅
八尾市植松町1-1-25
(072) 992-5311
<http://www.kyuuedakejutaku.jp>

主な記事

- ① 秋季企画展「くらしの中の祈り」
- ② 河内木綿まつり/JR八尾駅前花壇で河内木綿収穫
- ③ ひがしんビジネス大賞に入賞/なわの伝統野菜栽培日記
- ④ 出前授業スタート/澁川神社むかしあそび

季展 画 くらしの中の祈り

秋企 植田家・生活の中の信仰にスポット

安中新田会所跡旧植田家住宅で
は九月二日(水)から一月三日
(火・「文化の日」)にかけて、「新
田開発と人びとくらしの中の祈
り」というテーマで企画展が行
なわれ、かつて植田家の人びとが
日常のくらしの中で信仰した神
様、仏様に関する資料が展示され
ている。

植田家の人びとが正月に飾つ
た、中国の伝説に由来する鎮宅霊
符(ちんたくれいふ)は当時と同
じ祀りかたで展示され、来館者は
特に熱心に見ているようだった。



植田家の人びとが正月に飾った鎮宅霊符

曼荼羅(熊野那智山)や梵書観音
像、阿弥陀如来像といった仏画も
掛けられた。

植田家は家を改築する際に家相
を強く意識していたようで、展示
された家相図(一八二三年・文政
五年)は、付せんが貼られ、朱墨
で加筆されており、念入りに家相
が構想されていたことがうかがえ
る。他に、大黒様(八咫)と三面
大黒和讃(一点)を展示し、主屋
の軒にある鍾馗(しよき)さん、
屋敷神のお稲荷さんも紹介した。
この企画展に関連して、九月五

日、関西大学文学
部教授・森隆男氏
(文化人類学・民俗
学)を講師に招き
講演が行われた。

今回の講演は「住
まいが育てた日本
の心」と題し、住
まいという切り口
から多くの貴重な

話を聞くことができた。



植田家の敷地内にあるお稲荷さん

また、森氏は住まいにみられる
あいまいさに価値を見つけ、それ
らについていくつかの例を挙げな
がら説明した。その中で、屋根や
玄関の魔除けなどの外観からみた
住まいの機能性について、神話や
伝説などが多く反映されていると
の指摘があった。そして、鎌倉時
代の京都の町屋を例に出し、雨垂
れ落ちと敷居が住まいに「けじめ」
をもたらしたと話し、軒や縁が住
まいに「あいまいさ」をもたらし
たとしながら、住まいの中の建具
の役割や、カミ、シモのように住

まい空間には秩序が存在すること
を話した。

最後に、現代の人間関係におけ
る距離感の喪失を、日本の住まい
の変容が問題であると提起した。
伝統的な日本の住まいでは家の内
と外を切り離す結果の部分が開け
めとしての厳しさを育て、軒や縁
のように家の内や外でもないあい
まいな部分がおもいやりの心を育
てたとし、もう一度、新しい住ま
い像のありかたについて考えるべ
きであると締めくくった。参加者
は、森氏のわかりやすく、丁寧な
話に興味を持って聞いていた。



森隆男氏の講演風景

桃林堂

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(澁川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.torindo.co.jp/>

旧植田家住宅より西へ約20M
ご利用を、お待ちしております。

おいしいお茶は心を
豊かにしてくれます。



- 深蒸し煎茶 芳水 100g 200g
- 店主のおすすめ 季節の味わい 秋茶物語 100g
- 深蒸し煎茶 清緑 200g
- 暮らしのお茶からギフトまで



龍華茶舗

おいしいお茶は専門店
〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1
☎ 0120-19-1184
tel.0729-93-5673 fax.0729-23-5828

“りんごの木”は、障害をもつ
人たちが、ひとつひとつ丁寧に
縫製品や手織り品を作り働い
ています。

りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信實福祉会
りんごの木

〒581-0868/八尾市西山本町4-15-2
作業所/072-993-4330
ショップ/072-997-1440

9・23 河内木綿まつり

八尾市内七会場で同時開催

秋の穏やかな陽気に包まれた九月二三日・秋分の日、「河内木綿まつり」が旧植田家住宅を含む八尾市の七会場で開催された。八尾市立歴史民俗資料館が主催・企画した本イベントでは、かつての河内の人々の生活を支えた「河内木綿」の魅力伝えようと、河内木綿の作品の復元や地域活性化、福祉活動などに取り組み市内の一一団体と協力し、綿や木綿に関する様々な催しが行なわれた。

旧植田家住宅では、「植田家につたわった河内木綿」と題して、明治初期の河内木綿の優品(旧植田家住宅所蔵)八点が展示された。旅行の際に着用する《道中着》をはじめ、植田家の家紋が入った《家紋入単衣長着》や藍染めの《脚絆》、《猿股》のほか、《家紋入り油単》など、《本物》の河内木綿が目を惹いた。

また主屋では、入館時に配られた河内木綿の実綿(種の入った綿)を使い、綿織りと糸紡ぎの体験コーナーが設けられた。綿織り(実綿から種を取り出す作業)では、ひとつずつ手で行なうと難しいこの作業も、綿織り機という道具を使用すると、ハンドルを回すだけでおもしろいほど綿から種を取り出すことができる。この綿織りには、多くの来場者が関心を示し、子どもたちは夢中になって遊んだ。

また主屋では、入館時に配られた河内木綿の実綿(種の入った綿)を使い、綿織りと糸紡ぎの体験コーナーが設けられた。綿織り(実綿から種を取り出す作業)では、ひとつずつ手で行なうと難しいこの作業も、綿織り機という道具を使用すると、ハンドルを回すだけでおもしろいほど綿から種を取り出すことができる。この綿織りには、多くの来場者が関心を示し、子どもたちは夢中になって遊んだ。

「河内木綿まつり」開催中の幟が立つ旧植田家住宅・表門前



綿織りの後、じんぎ(綿打ちした綿を細長く丸めたもの)を作ると、ようやく糸車で糸を紡ぐことができる。じんぎを左手に持ち、糸車の先から出ている糸をその上に乗せ、右のハンドルを回すと、糸に「より」がかかり、じんぎが次々と糸に変わっていく。慣れない

いうちは力加減が難しく、うどんのような太い糸になってしまいが、そのうち細くて丈夫な糸が紡げるようになる。こちらは大人が細い糸を紡ごうと奮闘している姿が印象的であった。

旧植田家住宅では他に、糸紡ぎで失敗した少し太い糸を使って「河内木綿をまとったヒツジ」(ハツジ)作りも行なった。また別の会場で収穫したばかりの河内木綿を持参して訪れる来場者の姿も見られた。

子どもから大人まで遊びながら河内の伝統文化に触れることのできた「河内木綿まつり」は、一日だけの開催であったが、実際にきて、みて、ふれることで、それぞれ文化の大切さを学ぶ機会となった。



来場者

糸車を使って糸紡ぎの体験をする

たのではないだろうか。かつて八尾で栄えた河内木綿の文化がこれからも継承され続けることを願う。

旧植田家住宅では、十一月に河内木綿体験講座を予定している。河内木綿のさらなる魅力に触れてみてはいかが。



J R八尾駅前花壇

J R八尾駅前南口の花壇には、今年の春頃から河内木綿が植えられている。これは八尾市の伝統である河内木綿の伝承(普及)と駅前の景観づくりを目的として、種から育てられたものである。管理はJ R八尾駅前商業協同組合によって行なわれ、J R八尾駅前商業協同組合・植松のまちづくりを考える会・J R八尾駅及びびボランティアの皆さんで育てている。

この河内木綿が九月初旬より黄色い花を咲かせ、白い綿の実をつけ始めた。それにともない同月一日(金)の午前、管理者及び有志一同により第一回河内木綿収穫が行なわれた。この収穫には、旧植田家住宅も参加。収穫した実綿は旧植田家住宅にて保管(乾燥)し、今後の綿織り体験にも活用されるとのこと。



真っ白な河内木綿の実綿を収穫する参加者

今回初となる収穫では、花壇とプランターの河内木綿全てから実綿がはずされた。しかし同花壇の一面に蔓延ったポーチュラカの花の手入れに大きく時間を割かれ、実際に収穫できたのはわずかに一〇分ほどであった。それでも参加者は白く大きく育った実綿を夢中で収穫し、終始喜びに浸った。

結果、花壇とプランターからは約六三〇グラムの実綿を収穫することができた。その後も、二回、三回と収穫は行なわれ、現在では約一六〇〇グラムの実綿が保管されている。来年、八尾駅周辺に再び河内木綿の黄色い花が咲き、白い姿が顔を見せる日が待ち遠しい。

マンジーくん

安富士 暁



※ 記(まんじ)は植田家の家紋です

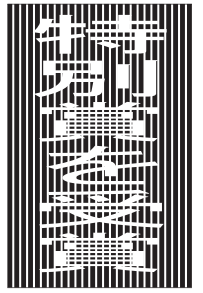
二次審査プレゼンテーションの様子



「ひがしんビジネス大賞」は地域の中小企業者や学術研究者が展開する、独創的かつ市場性のあるビジネスモデル、さらに郷土の歴史・文化の高揚等についての取り組みを奨励し、地域の活性化に貢献することを目的として今年、創設されたものだ。

九月二八日(月) 大阪市内のホ

ひがしんビジネス大賞



表彰状を受け取る NPO 法人 HICALI 理事長・木村正二氏

テルにて表彰式が行われ、NPO 法人 HICALI が、安中新田会所跡旧植田家住宅における指定管理者としての取り組みに対して特別賞を受賞した。表彰式では、大阪東信用金庫理事長・梶田益男氏より受賞者に表彰状と賞金の目録が贈呈された。

ビジネス大賞には製造部門、非製造部門および学術奨励部門の三部門があり、合わせて三三件の応募の中から、一次審査、二次審査



および最終審査を経て最優秀賞一件、優秀賞二件、特別賞一〇件の、各賞が決まった。

「ご意見・ご感想ノート」より

旧植田家住宅の座敷には一冊のノートが置かれており、来訪者が自由に書き込める。そこには子どもから大人までたくさん意見・感想が書かれており、スタッフの心をなごませている。その中からいくつかを抜き出してみた。

- ・八尾市内の文化財として誇れる立派な建造物です。昔の生活ぶりがしのばれてよかったです。
- ・学校帰りに寄りました。座敷でまったり座りながら、アンケータを書いていたのですが、畳のよい香りと座敷の雰囲気とても眠くなってきました。展示物もとても興味を持って、また来たいと思いました。
- ・旧大和川の付替え工事から新田(他の八尾、東大阪)の様子が

よくわかるように展示されています。また来たいと思います。

安中新田会所がいに一般公開したという情報を聞いて沖繩からやって来ました。京都・奈良の様な人ゴミとは疎遠の落ち着いた場所なので、ゆっくり見学することが出来ました。

たくさんありすぎて一度には紹介しきれないので、機会があれば、また紹介していきたい。

なにわの伝統野菜 栽培日記

旧植田家住宅の庭の東側には、二坪ほどの畑がつくられており、そこでは「なにわの伝統野菜」がスタッフの手により、丹念に育てられている。現在は天王寺蕪(かぶら)・田辺大根・吹田慈姑(く

わい)の三種類が植えられており、このうち田辺大根に関しては「大根マン一号」・「大村根」など、ユニークで愛嬌のある名前をつけ、成長を楽しみにしている。

シルバークウイクごろに植えられた冬野菜たちは台風の影響で成長が遅れが出ており、年末から来年一月ごろに収穫の予定だ。

さて、「どの子」が一番立派に成長するのか、今から楽しみだ。



台風にもめげず成長する田辺大根

く大根レシピ

●大根のとう〜り炒め●

大根だけぞ こ〜り おかず

材料

大根	半分
生姜とニンニク	お好みで多め
ゴマ油	大さじ1
しょうゆ	大さじ1
塩	ひとつまみ
豆板醤	少々
鳥ガラスープ	100cc
オスターソース	大さじ1
水溶き片栗粉	適量



- ① 大根はスライサーで薄くスライスして千切りにする。
- ② ゴマ油でニンニク、生姜を炒めたら千切りにした大根を入れ、油が回るとしんなりしたら塩をひとつまみとしょうゆ大1、豆板醤 少々を入れる。
- ③ 鳥ガラスープ100ccを沸騰させ、オスターソース大1を加え、よく混ぜながら炒め、最後に水溶き片栗粉で、とろけかけたら出来上がり!

<ポイント>

大根はなるべく薄く切ったほうが火の通りも早く、おいしくできあがり!

出前授業スタート

一〇月二三日(金)に西山本小学校で出前授業が行なわれた。NPO法人HICALIからは北村茂章、原多摩樹、宮元正博の三名が講師として派遣された。

前半は西山本小学校区の今と昔を比べてみようというテーマで、古い写真や地図などを提示しながら講義が行なわれた。比較的小さな校区だということもあってか、子どもたちは自分たちの住んでいる地域について、かなり詳しい様子。提示される資料が変わるたびに「ここ知ってる!」「僕の家昔は川の中や〜!」と元気の歓声が上がった。



スライドが変わるたびに元気の歓声があがる

後半は河内木綿についての簡単な解説のあと、実際に河内木綿に触れてみる体験学習の時間になった。子どもたちは木綿で作られた布団に寝てみたり、着物を着てみたりと、現在の身の回りにおける繊維製品との違いを肌で感じることができたようだった。

NPO法人HICALIによると、出前授業は来年度から本格化する予定で、「先生がたと相談しながら、楽しく自分たちの住むまわりのことを学べるような授業を提案していきたい。」とのことだ。

深まる地域交流

河内木綿体験講座

「ちよつと昔のくらし体験」もちつき大会

気分は時代劇スター？

日(日)に行なわれた「昔あそび」(JR八尾駅前商業協同組合主催)で、NPO法人HICALIはカタヌキのブースを出した。当日は雨が心配されたが、開催時間中に降ることはなく、境内は大勢の人でにぎわった。

同時に、旧植田家住宅ではチャンバラ教室が開催された。劇団潮流(<http://www.gekidan-choryu.co.jp/>)から二人の「師範」を迎え、新聞

紙を使った刀づくりや、基本となるいくつかの型を習った。

教室の最後に「免許皆伝」の賞状が手渡された「ちびっこ剣士」たちは、意気揚々と旧植田家の門を出ていった。



右/カタヌキに夢中
左/チャンバラ教室の様子

今後の予定

一〇月三十一日(土)

八尾再発見文学に見る八尾(今東光と八尾講師・伊東健氏(今東光研究家))

*九月二八日(月)より今東光関連資料展開催中

十一月五日(木)〜二月二六日(土)

「新田開発と人々」歴史編(仮)

十一月二四日(土)・二五日(日)

関西文化の日(*無料入館日)

十一月二二日(土)

河内木綿体験講座

*簡単な講座のほか、糸つむぎ、縮くり、小物作りなどの体験ができます

*小学生以上対象・要申込(定員二〇名)

十一月二三日(日)

記念講演「新田会所とオーナー：地元文化遺産のある魅力」

講師・戴田貫氏(関西大学文学部教授)

十一月二六日(土)

「ちよつと昔のくらし体験」もちつき大会

*参加無料

行事・展示に関するお問い合わせ

は、安中新田会所跡旧植田家住宅

(072-992-5311)まで。

*午前九時〜午後五時・火曜休館

編集手帳

平野川にたくさんさんの鴨が飛来して

通勤のひと時を和ませてくれてい

ます◆最近川ざらえが行なわれ

心配していましたが影響ないよう

です◆来年の春まで無事にすこし

てくれることを祈ります。(み)

てくれることを祈ります。(み)



JR八尾駅前商業協同組合



ふれあいとぬくもりの商店街